



小さなたねの物語が描かれたスタンドグラス（ガラスアート TAKAMI 製作・寄贈）

暑中お見舞い申し上げます。連日の猛暑が続いており、一歩外に出るとつい「暑いー」と口から出てしまいます。熱中症対策として、こまめな水分補給と、エアコンを上手に活用しながら、暑い暑いこの夏を乗り切っていきたいものです。

小さなたねでは、学齢期の子どもたちが夏休みに入ったこともあって、利用が増え毎日賑やかです。未就学期・就学期・成人期（一歳から三十歳代まで）といった幅広い年齢層が、同じ空間・時間を過ごしています。その障がいの重さゆえに、言葉や目に見える形でのコミュニケーションはなくても、一人ひとりから発せられる声や、その場の雰囲気やそれぞれが感じて、目をキョロキョロさせている人、静かに眺めている人、ワイワイ騒いでいる人等々、それぞれが個性豊かに過ごしています。それは私たちスタッフやボランティアも含め、年代的に見れば祖母や孫の世代までといった大家族のような光景を示しているかのようです。

存在力を見出す

少子化や核家族が進む中、家族だけでは各々の役割や、一人ひとりのポジションが意識されにくくなっています。しかし、世代を超え一つ所に集まる場所では、自然とその役割や居場所が出来上がっていくように思います。小さなたねの中に、一人ひとりの役割と居場所が出来ていくことで心地よい空間を創り出せればと願います。それにはまず、一人の存在のその年齢やその時でしか出せない「存在力」の見出しから始めたいと思います。そして、皆でそれを尊重し共有して過ごすことを喜ぶたいのです。



夢膨らむバルーンアート

たねナースのつぶやき

7月号のこの「つぶやき」欄が掲載されてから、たくさんのお母様より、「お子さんですか？ 似ていると思いましたが」と声をかけて頂きました。なかなか聞きづらかったということも聞きました。そこで今回は、自己紹介をさせて頂きます。

羽太舞子（はぶと・まいこ）28歳、前病院を7年勤め、二人目の妊娠を期に退職いたしました。出産後、復帰する予定でしたが……二人目の子が、小さなたねを利用することになった女の子でした。子どもの体調もなかなか安定せず、保育園に預けることも出来ず、再就職を諦めなければいけないと思っていた頃でした。何気なくインターネットで見つけた「たね」に見学に行き、スタッフの皆さんとお話をするうちに、採用して頂けることになりました。偶然の出来事でしたが、今は運命のように感じています。

たねにお世話になり、早2ヶ月が経ちました。小児科の経験もない私ですし、慣れないことばかりで、新しい発見と勉強の毎日です。足りないことも多いと思います。何かありましたら皆様、すぐに教えて下さい。そして、1日も早く、羽太になら安心して預けられる！と語ってもらえるようにがんばっていきます。これからも、よろしくお願ひいたします。

（羽太）

医療法人にのさかクリニック 地域生活ケアセンター 小さなたね

〒814-0172
福岡市早良区梅林6-23-3
電話 092-874-3051
FAX 092-874-3052
E-mail: chisanatanetane@tune.ocn.jp
ブログ: <http://chisanatanetane.blog.ocn.ne.jp/blog/>



所長 水野 英尚



日	月	火	水	木	金	土
				1	2 	3
4 休	5	6	7 	8	9 	10
11 休	12	13	にのさかクリニックお盆休み (13~16日)			17
18 休	19	20	21 	22	23 	24
25 休	26	27	28 	29	30 	31

たね食堂 (毎週水・金……14日・16日はお休みです)

「楽塾」訓練会……21日(水)(19:00~学習会)

たねふえすた……24日(土) 13:30~

ヘルパーミーティング……31日(土) 18:30~



イラスト：いしたに・ひかる

四角い支援と丸い支援

障害のある方々が日常生活で受けることができる公的サービスは、「障害者総合支援法」によって規定され、個別に給付された支給量により利用の範囲が決められています。在宅で食事や入浴等の支援を受ける「居宅介護」や、外出のための「移動支援」(あるいは同行支援・行動援助)という日常での生活支援と、施設などで一時的に預かる「日中一時支援」や宿泊を伴う「短期入所」などが主なサービスとなります。利用するには、障がい の程度や年齢により、行政からの認定を受けなければなりません。支給が決定され、サービスを提供する事業所と契約を結び、利用スタートとなります。

それは「公的」である以上、利用者も事業所も行政により定められたルールに従わなければなりません。もし、違反を行えば処分を受けることとなります。ルールには、時間の制限や、サービスの提供できる場所の指定などが当然あります。都合よくいつでも、どこでも受けられるものではありません。つまり、制限と制約できっちりちと括られた、画一的な「四角い支援」と言えます。

生活の中では、定期的に継続したサービスが提供できるように、そのようなシステムは有効だと言えます。しかし、暮らしの中では、いつもそのようにきっちり括られ、取り決められた「四角い支援」だけでは捉えきれない部分が必要です。「丸い」部分があるのです。そんな時は、「丸い支援」が求められます。

例えば、「入院中、少しでも家族に代わって付き添いすることができないか」とか、「雨降りや炎天下等の悪天候のときだけ、二人介助が必要となる」等々、いつもではないが、こんな時、こんな支援が欲しい、といった隙間を埋めるような支援が要求されます。そこで、公的サービスではない、私的サービスによるインフォーマル支援が必要となるのです。

そのようなサービスを各事業所も工夫して設定しているようですが、独自サービスとなりますから料金設定もまちまちです。ちなみに、小さなたねでは、1時間1200円(時給分) + 交通費という形で行っています。これはあくまで、四角い支援を補う形でプラスアルファの

「福岡市障がい保健福祉計画」について

平成24年度から26年度までの「福岡市障がい保健福祉計画」が策定されています。各区役所などで手に入るのですが、ぜひご覧になって欲しいと

思います。

策定するにあたって、「福岡市保健福祉審議会障がい者保健福祉専門分科会」の各委員により審議が行われ、また、市民から寄せられるパブリックコメントなども参考になっています。今年度から、先の分科会の委員に、障がい福祉に携わる事業所や家族から、選考により3名が加えられるようになりました。私もその

中の一人として、分科会に出席させて頂いています。限られた時間の中で、膨大な議題を審議するには限界がありますが、机上の空論でなく具体的な課題と必要性をもった発言を心がけています。それぞれの委員たちも各分野や立場から発言がなされ、福岡市保健福祉課の各担当者との質疑応答をしながら審議されていきます。

「障がい保健福祉計画」は、統計グラフなどの数字の羅列やアンケート調査の結果、取り組みの方向性という内容で、手にしても無意味なものだと考えられる方が多いかもしれません。しかし、その文字や数字の背後にある具体をイメージして、行動に移していくことが求められています。高島市長がその冒頭で、「障

がいのある人となない人が等しく地域の中で自立し、社会の一員として共に生きる社会を目標像とする本計画」と語られています。その実現のために、私たちは立ち上がり働いているのです。



計画を実行していくために

支援という位置づけですから、必要があれば誰でも受けられるものではないのが現状です。

障がいがあっても在宅で過ごす方が増える中、当事者やその家族にとっても、公的サービスの拡充が求められています。しかし一方で、財政難に喘いでいるこの国の現状があります。必要な部分に必要な予算が充てられることを願いますが、現実的な四角い支援は、ますます四角四面を強化し、縮小している感もあります。このような時代の中で、私たちは不足している部分の隙間を埋めるかのように、丸い支援を提供するだけでなく、丸い支援をすることによって四角い支援を押し広げていくことが大切だと思います。そのために、官民共同であることの意識作りと作業が重要です。

最近、在宅で生活する重い障がいのある方々の実態を把握するためのアンケート調査が、県・市によって行われています。行政は、予算を確保し膨大な事務作業を投じて統計をとりデジタル化することが得意です。ですから率先して応えていかなければならないと思います。そして、それを元にして具体を創り出していかなければならないのですが、行政はその「創り出し」が非常に苦手なようです。

そこで、「民」である私たちの出番です。具体を示しながらアイデアをどんどん提案し、私たち自身も動き働きかけていくことが大切です。そのようにして、互いが協力とサポートを認識することにより、歯車が噛み合い動き出していくのではないのでしょうか。やがて、福岡の街の公助と共助が膨らみ、より豊かな社会が築かれていくことができると思っています。



にのさかクリニック「デイホスピス」

高橋 厚子
娘は脳性マヒ・関節拘縮症
特別支援学校中学部2年生

7月15日朝、起きてすぐの娘に「山笠見る?」。娘は眠そうな目で、なんだっけ?という感じ。

博多祇園山笠のフィナーレ、追い山の生中継番組(の録画)を2時間遅れで見始めた。録画してまで追い山中継を見るのは初めて。娘が大好きな担任のK先生が山笠に参加されているから、今年は特別だ。

一番山のスタートまでに、1トンの昇き山が5kmのコースを走ることや、唯一走る飾り山は背が高すぎるので、街の中を走る時は山の上部が電動で収納され小さくなることなどが紹介された。娘もだんだん目が覚め、わくわくモードになってきた。

いよいよ一番山の恵比須流が榎田神社をスタートする。テレビから「10秒前、5秒前、3、2、1『ヤー!』」。娘は体に力が入り、手が上がった。そして笑顔。「オイサ、オイサ!」に

追い山中継



家族でくぎづけになった。

一番山、三番山とスタートしていき、「次、4番目、東流。先生走るよ」。娘の目が大きくなった。ひとつの流で何百人もの人が走るから先生を見つければ難しそう。すると、さっきまで楽しそうだった娘がべそをかき始めた。

「K先生が映らんから悲しいの?」に、「あ」「Yes」ということ)の返事。あれれ。

映るかどうかわからんよ、とは話していたけれど、体調を崩して学校を休み、一週間以上先生と会っていなかったから、娘は本気で先生の姿を探したのかもしれない。期待させてごめんね。

少しすると機嫌はもちなおした。よかった。七番山の千代流がゴールし、今年の山笠が終わった。「東流が一番早かったよ、すごいね」と、見ていただけなのに達成感を味わう私たち。

この日思ったこと。早く登校できるようになって、娘を先生に会わせてあげたい。テレビだけど、録画だけでも、家族で見る山笠は楽しい♪

summer festa

たねふえす

in 小さなたね



8月24日(土) 15:00~18:00

地域生活ケアセンター 小さなたね



- ☆かき氷 ☆風船ヨーヨー&スーパーボール
- ☆巨大スマートボール ☆射的 ☆たこ焼き
- ☆ジュース ☆生ビール などなど



❖ 特別ゲスト ❖

福岡大学軽音サークル有志によるバンド演奏(予定)

お楽しみ抽選会もあります!